日本勤労者山岳連盟・静岡県勤労者山岳連盟

裾野麗峰山の会 (sine１９９４)

第２３期・１０巻　２０１８年２月号　ＮＯ．２０１

仲間と仲間を結ぶ機関誌

すーほう

Susono Reihou Alpine Club

冬山登山・５０周年記念山行

山行ＮＯ．１７７３
０１月２０日（土）
八ッ・阿弥陀岳

山は冬が一番美しい

＜第５回県連理事会報告＞２０１８年１０月２９日（日）９：００～　静岡市・長田生涯学習センター

【理事出欠状況】

伊豆ＨＣ　鍋島　要（○）	あさぎり山の会：斉藤富夫（○）	安倍っ子山の会：竹本幸造（○）
三島労山：山口美恵子（○）	あさぎり山の会：福原勝治（○）	ＮＭＣ　：海野美春（欠）
裾野麗峰：後藤隆徳（○）	清水労山：小林幹郎（○）	山登歩山の会：花澤秀治（○）
駿東山の会：近森正彦（○）	静岡労山：遠藤春代（○）	山の会ケルン：西森輝茂（○）
沼津労山：植松久美子（○）	静岡労山：瀧　茂（○）	浜松労山：磯部規子（○）
ふじ山楽歩：加藤秀子（○）	焼津山の会：木原　政子（○）	

１．各ブロック報告

東部：鍋島Ｂ長（伊豆ハイク）

１１月１２日（日）ブロック交流ハイク　　日向山で実施　４５名参加

１２月１８日ブロック会議　議案書検討、県連交流ハイク大型バス利用について

中部：花澤Ｂ長（山登歩）

１０月１日　ふれあいハイク実施

１１月　日　大日古道清掃

県連交流ハイク　の相談　　分担など

２月４日　スノーシューハイク　大室山周辺で実施予定

西部：磯部Ｂ長（浜松）

安全登山講習会の感想交換　　冬山の取り組みについて

ケルン１０名　浜松３０歳代２名の新加入

参加は、東部＝７３、中部＝４７、西部＝１２。合計＝１３２でした。

２．専門部報告

【組織部】　後藤隆徳部長

① 県連交流ハイクで　清水１名，麗峰１名新加入

② 参加は、東部＝７３、中部＝４７、西部＝１２。合計＝１３２でした。

③ ネームプレート現在８団体作成済み、三島、沼津作成中
ネームプレートについて登山時報への掲載を依頼

【教育遭対部】　瀧　茂　部長

① 事故報告　前理事会以降２件の事故

② 安全登山講習会　１０月２９日　　ヤマテン　河野卓郎氏
おおむね好評だった　改めて勉強になった

③ ゲレンデスキーも新特別基金の対象にしてほしい　　⇒　引き続き全国へ訴えていく
対象にしてほしいとの要望は、伊豆ＨＣの意見：要望を出すのであれば文書で以て行い遭難対策基金委員会に提出しその要否を確認することが必要。
＊全国連盟の遭難対策委員会での決定事項は、ゲレンデスキーは対象にしないとの報告を

受けている。（竹本報告）

【自然保護】　木原政子部長
自然保護集会に参加、報告はメールで送信済み
*ベルクバハト報告　紙面のとおり

３．安全登山講習会
９５名の参加

４．県連交流ハイク
・トイレが使えず困った。携帯トイレ、トイレテントなどの利用を考えていく
・登山時報より　三島に寄稿依頼があり報告した

５．リニア問題
＜署名＞最終締め切りは特に決めていない
静岡県連としては、全国連盟の総会方針に沿って今後も取組みを進めていく。
木原：説明資料など用意し署名を求めている
福原：もう一度各会でリニアについて声をかけていこう
＜裁判の進捗状況＞
今までに８回の口頭弁論・意見陳述が行われた。計画沿線各県の意見陳述を踏まえ吉田裁判長は、沿線原告の真剣な訴えと毎回満員の傍聴に対し曖昧にできない事を感じてか丁寧に時間をかけざるを得ない状況となっている。

６．栄誉功労賞、永年功労賞
栄誉功労賞　県連総会で表彰
永年功労賞　伊豆ハイク、安倍っ子、焼津で申請

７．その他
（３）東海ブロック主催の雪崩講習会　浜松１名、山登歩１名参加、会長（竹本）参加
女性と登山全国集会　　参加なし

午後　議案書検討

＜総会次第＞
開会の辞　中部ブロック
議長　　西部・東部　各１名
資格審査　中部ブロック
選挙管理委員　東部ブロック２名
書記　　西部ブロック

＜総会について＞
・県連の歌を歌う　　⇒　開会の辞の次に
・記念表彰　　⇒　議長解任の次
・議事運営に際し疑義が生じた場合議事運営委員は特に設けず、議長の判断で休憩等を取り三役と相談の時間をとり図る。

・三役と専門部長は前に着席する
・受付　各ブロック長が行うのが望ましいが、早く来た理事が手伝う。

ハ、山行報告

１２月２７日（水）～３０日（土）	冬山合宿・甲斐駒ヶ岳＝駒津峰（２７５２ｍ）まで ＝後藤・加藤・庄野（ゲスト）
０１月０７日（日）	冬山登山・５０周年記念登山 横岳・杣添尾根＝後藤・加藤
０１月１４日（日）	２０１８・県連交流ハイキング＝牛ヶ峰（高山） レイホーは、１０名参加
０１月１９日（金）～２０日（土）	冬山５０周年記念＝赤岳～阿弥陀岳 後藤、勝又陽、加藤
０１月２７日（土）	雪見ハイキング＝伊豆・巣雲山・・・１０名

二・今後予定（変更もあります）

０２月

０２月０３日（土）～０４日（火）	個人山行
０２月１０日（土）	**定例ハイク＝薩埵峠～浜石岳**
０２月１６日（金）	個人山行
０２月１７日（土）～１８日（日）	全国連盟総会＝後藤、（斎藤理事長・竹本会長）
０２月２４日（土）～２５日（日）	個人山行
０２月２７日（火）	**まったり山行（新設・平日のハイク）＝発端丈山**

０３月

０３月０３日（土）	定例ハイク＝
０３月０４日（日）	第５２期・県連総会
０３月１３日（火）	**まったり山行＝パノラマ台**
０３月１６日（金）～１８日（日）	個人山行
０３月２４日（土）	ハイクの日

ホ．新入会員

１．鈴木綾子　　２．松本富子　　３．鈴木新平

＊宜しくお願い致します。

へ・山行報告

山行NO　　ＮＯ．１７７０　　写真・文　ＧＴ

日　時　　２０１７．１２．２７（水）～３０日（土）

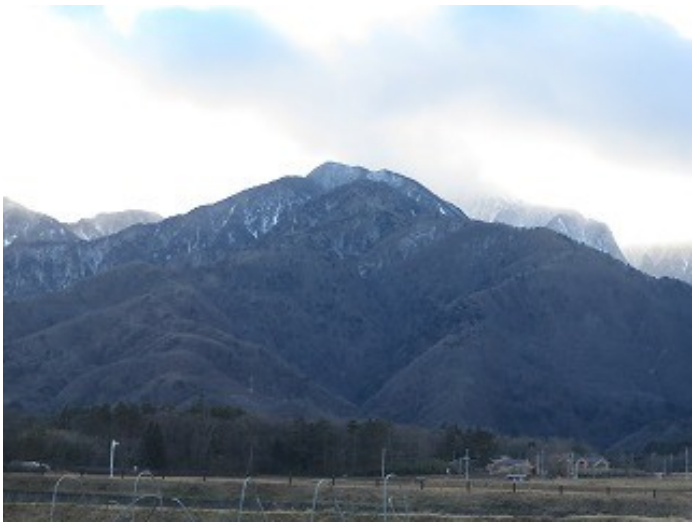
山　域　　甲斐駒・駒津峰（２７５２ｍ）

コース　　２７日＝長泉—竹宇・駒ヶ岳神社駐車場（テン泊）
　　２８日＝駐車場—戸台～北沢峠（こもれび荘泊）
　　２９日＝北沢峠～仙水峠～駒津峰～北沢峠（小屋泊）
　　３０日＝北沢峠～戸台—伊奈駅—長坂駅—駒神社—長泉
参加者　　ＧＴ，ＫＨ、ＳＯ（ゲスト）、車回送ＭＭ

甲斐駒登山、５０周年記念登山

１日目
２７日（水・晴）長泉１３：００ー駒ヶ岳神社１５：３０（テント泊）
私が初めて甲斐駒に上ったのは、１９６７年１１月で２０歳だった。
その時、角兵衛沢～鋸岳～甲斐駒～黒戸尾根をやった。
昨年は、それから丁度「５０年」
今回は、この記念すべき年の年末、甲斐駒に上る計画だった。

２５日、小屋から電話があり、２８日、戸台手前が道路工事で朝８：３０から通行止めの連絡があった。
前回は、長泉を４：００に出て戸台発９：００だった。しかし、４：００以上早出は無理。結局、前日駒神社駐車場に泊まる計画に変更した。
また、戸台の車回送は会員のＭに頼んだ。長泉１３：００発。あさぎり道の駅でＫＨと合流し、駒神社に向かった。尾白の湯に入る案もあったが、寒く風邪が心配なので、食堂で食事のみ済ませた。本来、入浴なしで入館は有料だが、頼んで無料にして貰った。有難い。
夕食後、駐車場でテントを張って就寝。Ｍは寒かったようだ。夜中、ゲスト参加のＳが来たが、分からなかった。


２７日、しぐれる甲斐駒

２日目
１２月２８日（木・晴）起床４：１０ー中央道—伊那ＩＣ—戸台発７：３２ー旧丹渓山荘１０：２０ー八丁坂—こもれび荘１２：５６（泊）
中央道を伊那ＩＣに向かう。中央ＡＬＰＳは、しぐれガスが掛かっていた。このところ冬型が強く山は荒れ

ていた。戸台には、余裕を持って着いた。これも回送役のMのお蔭だった。
「登山指導所」で歓談。昨年は、戸台川の水量が多く参ったが、今年は、「大丈夫でははいでしょうか」だった。トイレを済ませ出発。左岸を行ってしまい少し苦労したが、取水口前で右岸に渡り、事なきを得た。登山者は、まだ早期なのでパラパラだった。
また、今年は雪が少なく、いつもイヤな丸小橋は、難なく渡れた。
約３時間で河原は終わり、八丁坂上りに掛かる。雪は少ないが、すぐアイゼンは着けた。樹間から
仰ぐ仙丈ヶ岳は、モーレツな雪煙を上げていた。
今回は、最大限の軽量化を図って来たので、上りは比較的楽だった。

出発

イヤな丸木橋

上から見覚えのある男性が降りて来た。「こもれび荘」管理人だった。「ああ、ゴトーさん」と覚えていてくれ握手でエールを交した。八丁坂下まで荷揚げに行くようだ。
後はブラブラ上って早い時間に小屋着。まだ、時期が早いので小屋はガラガラ。お蔭で静かにユックリ出来た。ここには、先着し後で世話になる、京都のM君もいた。

こもれび荘

京都のＭ君とＳ

今回の日本酒

３日目

１２月２９日（金・午前晴、１０時から超強風・ガス・しぐれ日）

小屋発６：３０―仙水峠９：２０―Ｓ待ち待機・下降・上り返し―駒津峰１０：２０―仙水峠―北沢峠１２：５６―こもれび荘（泊）１３：１２

天気予報は悪くなかった。でも夜半、森はゴーゴーと唸っていた。夜明けとともに小屋を出発。昨夜、小屋で交流した若い男子・やや年上の女性も一緒だった。

北沢下部でＳが「暑い」といって着衣を脱いだ。着過ぎのようだ。トレースはあり問題なく仙水峠着。ただ、手前の「賽の河原」は、いつも歩き難い。男性が一人先行していた。昨夜小屋で一緒になった方で単独で、

アサヨ峰に上るといっていた。

仙水峠から甲斐駒

仙丈ヶ岳

駒津峰に向かう。Ｓが来なかったので風が来ない場所で待った。待ったが来ないので、私が下って様子を見に行く。程なく上って来たが、既に疲れ切ったようだ。昨年は、厳しい山に上っていない。その影響があったといっていた。「（小屋に）戻るので行って下さい」だったので、再び上り出す。
森林限界でモーレツな風。朝方は静かだった山の風がドンドン強くなる。駒津峰に着いた。その少し前から怪しげな黒雲が西から見る見る内に甲斐駒を覆った。最悪だった。風だけなら登山は可能。しかし、それに霧が掛かると状況は変わる。更に風は半端でない。今年も駄目か。悪天候の山には上りたくない。潔く踵を返した。これで年末の山は昨年に続きに２連敗。余りの強風で写真も撮れなかった。風に追われるように下山。若い二人も下山。

北沢峠

小屋に着いた。時間は早かったが、もう一泊する。ただ、食料が残っていたので素泊りとした。Ｓと合流。無事でよかった。続々と山から下りてくる。仙丈もアサヨも全員上れなかったようだ。今日、宿泊予定だった七丈小屋には、管理人が連絡してくれた。連絡は衛星電話の様だが、代金は取らなかった。
夕方は、京都のＭ君・アサヨに行った千葉のＩさん・翌日、仙丈に行く沼津のＳ夫妻（翌日、旦那さんのみ登頂）と交流した。

左・二人目がＩさん

左の二人が沼津のＳ夫妻

３日目

１２月３０日（土・晴）小屋発６：３０—ハ丁坂—戸台川７：４３—日本山岳会・Ｓパーティーと会う８：２６—戸台９：５０—伊那市駅１０：４５—飯田線１１：１８—上諏訪駅１２：３９—中央線—長坂駅１３：２０—北杜タクシー（Ｋ運転手）—駒神社駐車場１３：４２—「おじろ」昼食（Ｓ帰京）—尾白の湯—長泉

ユックリ下る。この年末で今日が一番良い天気の様だ。
早朝アタックで甲斐駒～黒戸の手はあったが、７０歳になった私には、実行は相当の覚悟がいた。駄目な場合は、潔く下山。山を長くやる判断だろう。
順調に下って行くと、戸台川途中で会員の日本山岳会・Ｓパティ—に会った。男性３名、女子１名。テン泊だ。女子１名がドタキャンといった。翌日、全員登頂した。しかし、その日下山で戸台着がヘッドランプと報告にあった。戸台川をヘッデンでは辛いし、危険でもある。

日本山岳会Ｐ（左がＳ）

戸台川下山

京都のＭ君

上諏訪駅・足湯

Ｍ君の車で伊那市駅に向かう。この駅が一番近そう。下界は快晴だったが、中央ＡＬＰＳは雪煙が上がっていた。Ｍ君と駅で分かれた。ここまで送って貰い有難かった。また会いましょう。我が息子に似ていた。
飯田線に乗る。この電車は数年前、塩見～仙丈以来だった。上諏訪駅で電車待ちの間、足湯に入る。やや温かったが気持ち良い。中央線は長坂駅で下車。呼んだ北杜タクシー（Ｋドライバー）で駒神社駐車場に向かう。５０００ー程度だった。

「おじろ」のババさま

ツマミ

駐車場で土産物屋「おじろ」のババさまに入る。
昨年秋のハイク時、軽トラを出して貰い、世話になった礼をいう。
ビア・熱燗をいただいた。美味しかった。サービスのツマミが続々と出る。感謝感謝。
Ｓは車で飲めないので先に帰った。尾白の湯に入る。気持ち良かった。
今回の山は残念だったが、「捲土重来」、またやろう。　（了）

山行NO　ＮＯ．１７７０　写真・文　ＧＴ
日　時　２０１８．０１．０７（日）強風・快晴・中温
山　域　八ッ・横岳（２８２９ｍ）杣添尾根
コース　海ノ口登山口発８：３５－森林限界１０：４０－三叉峰（さんじゃほう）上１１：３６－横岳
１１：５３－登山口１４：００
標高差　登山口約１７５０ｍ～横岳２８９２ｍ＝約１１４２ｍ
参加者　ＧＴ，ＫＨ

冬山登山、５０周年記念登山

私が初めて上った冬山は、１９６８年年末の甲斐駒ヶ岳。２０歳だった。
その時、甲斐駒＝摩利支天壁・独標ルート、水晶沢、仙丈岳（当時は、「ケ」が入らなかった）を上った。
今年は、それから丁度「５０年」。５０年で数々の山を上って来た。

http://outdoor.geocities.jp/takanori_reihou2222/page006-3.html
記録は、上記に詳しいが、いずれ纏めよう。
ちなみに昨年は、甲斐駒ヶ岳・登頂５０周年だった。

海の口駐車場から出発。
風が強く梢がゴーゴーと唸っていた。

このところ好天が続いたようで、年末年始のトレースは残っていた。
雪が多く歩き易いので、アイゼンを使用しないでグングン上る。
森林限界の手前で二名抜かした。一名の方は、７時半に出発したと言った。
大分、へばっていた。
テン泊した方が、３名が下って来た。上は風が強いとの情報。
ここで我々もアイゼンを装着し、ヤッケを羽織った。
左手に赤岳が見事。いつ見ても素晴らしい景観。

赤岳

杣添尾根分岐（三叉峰）

小ピークを越えたところで、ストックからピッケルに変えた。
右手からモーレツな風が吹く。時々、持って行かれる。
風が強い分、雪が飛ばされ少なかった。
三叉峰の上りに掛かった。雪が少なく、ガジガジの氷だが、昨年より上り易かった。
上り切ると、縦走者が多かった。三連休で多くの登山者が入っているようだ。
八ヶ岳は、冬もほどほどの山で、その存在は有難い。

横岳手前の鉄梯子

横岳頂上

登山口から、約３時間。イイペースだった。
相方が盛んに空腹を訴えるので、小休止し少し補給。
横岳まで時間は掛からなかった。１１時５３分着。
登山口から、標高差約１１４２ｍを３時間１８分。歴代でサイコーの時間だった。
下でユックリしたいので、すぐ踵を返した。
大同心の頭にクライマーが２名いた。
かつては、私も冬の大同心を登攀したことがある。１９６９年のことだ。
三叉峰に戻ると、森林限界で抜かした、「へばり君」が上って来た。
頂上に行くか止めるか、三叉峰の下りに自信が無いのか、「連れて行って下さぁい」と懇願された。
しかし、「大丈夫だから、頑張って」と励まし分れた。

今日、事故の報道はないから、大丈夫だっただろう。
眼下にもう一人下っていた。追いついたら、やはり森林限界で抜いた、もう一人の若者だった。
疲れ切って、三叉峰で下って来たと言った。だが、相当悔しがっていた。

　いつもの素晴らしい景観
グングン下り、森林限界下のテン場跡で昼食。
ここでも今朝、７時半に出た男女に追いついた。
梅酒のお湯割りが超超サイコー。カップラーメンが実に実に美味かった。

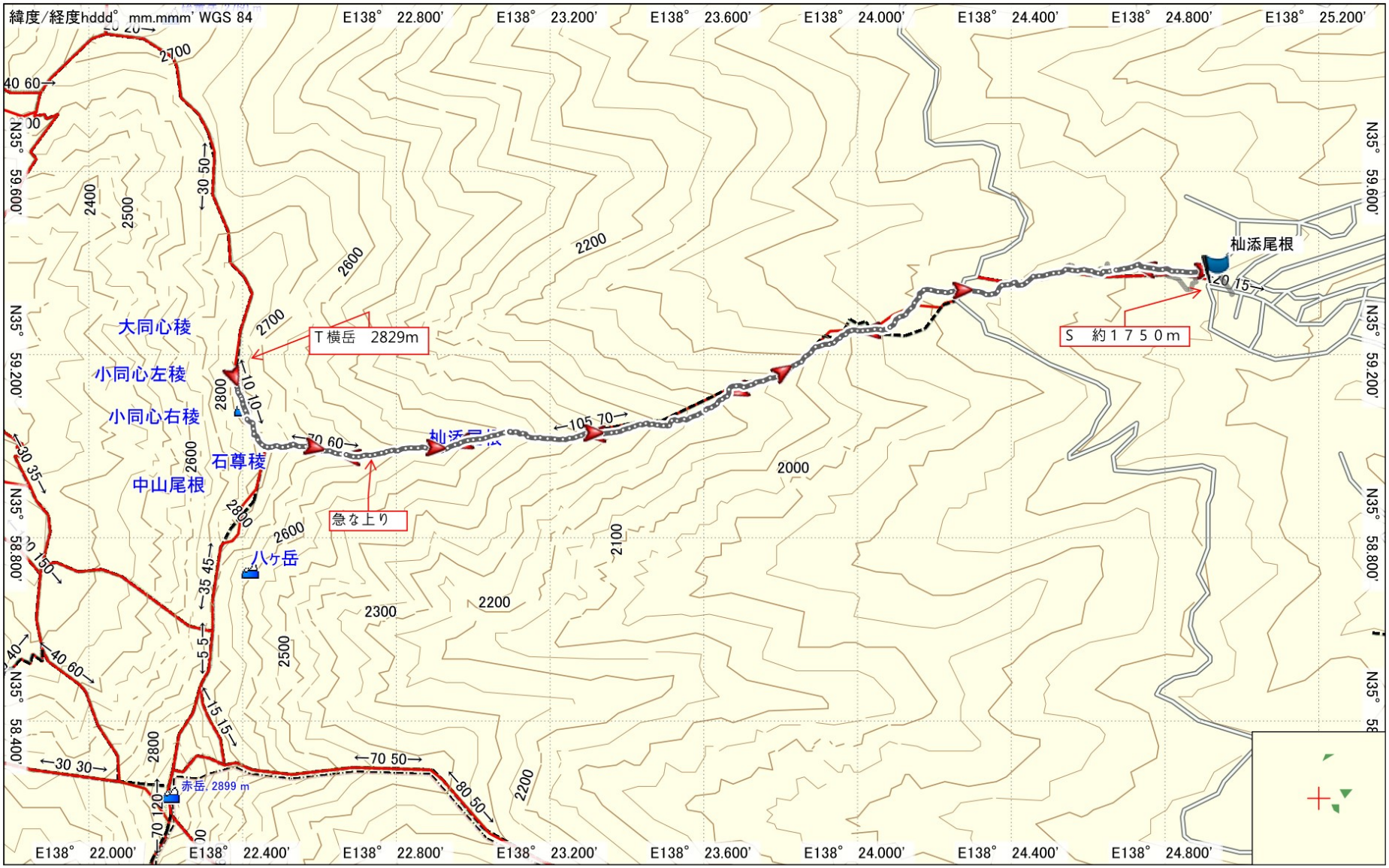
雪は多くなかった

カップラーメンは、嫌いでない

昼食後もガンガン下る。先に下った、先ほどの男女も抜かし、結局、６時半に出た群馬氏以外、
今日の登山者全員を抜かしたことになる。

今回、何故絶好調だったか理由は分かっていた。
私は来年、６回目の年男だ。
年齢を重ねたら、山行は、それなりの工夫が必要だろう。
年末の甲斐駒は駒津峰で撤退。残念な結果だっただけに、今回の登頂は率直に嬉しかった。
さあ、今年も張り切って行こう！！　（了）

杣添尾根（写真は昨年）



Japan Topo 10M Plus V3
CanvasMapple Co., Ltd 2014
Garmin Corporation 1995-2014

2018/01/08 6:18:50

0 m 250 m 500 m 750 m 1000 m

GARMIN.

山行NO　　ＮＯ．１７７３　　写真・文　ＧＴ
日　時　　２０１８．０１．１９（金）～２０（土）
山　域　　八ッ・赤岳（２８９９ｍ）～阿弥陀岳（２８０５ｍ）
コース　　赤岳鉱泉７：１２－行者小屋７：４６－文三郎道―中岳分岐９：００－赤岳９：３３－中岳分岐
　　中岳―阿弥陀岳１１：１１－御小屋尾根―最低コル－南沢―赤岳山荘１３：４９―もみの湯
標高差　　赤岳鉱泉約２２００ｍ～赤岳２８９９ｍ＝約６９９ｍ
　　中岳コル約２６５０ｍ～阿弥陀岳２８０５ｍ＝約１５５ｍ
参加者　　ＧＴ、ＫＹ，ＫＨ＝３名

誕生月前、赤岳に上る

１日目＝１９日（金）無風・快晴・高温
毎年、誕生月に赤岳に上っているが、今年は約１ヶ月前倒し。ただ、今まで日帰りだったが、大台を越え日帰りは厳しくなり、今回は前泊となった。
金曜日、ユックリ出発。午前は富士見スキー場でゲレンデスキーを楽しんだ。昨年新調した板も試した。昼食後、赤岳山荘からスタート。先日の雨で北沢道はガジガジに凍っていた。帰路、転倒し顔を血で染めていた方がいたが無理は出来ない。途中でアイゼンを履いた。

凄いガジガジ氷道

順調に進み赤岳鉱泉着。青空をバックにアイスキャンデーが見事。若い衆が二名訓練に励んでいた。小屋の方が周辺を整備していた。聞けば正面のハングを上れれば一人前とのこと。
小屋に入った。ここの宿泊は初めて。暖房は十分利いているが、スリッパがなく足が冷たい。分かっていれば、持参したかった。ただ、小屋のスタッフには履いている方もいた。これって何？？
時間は十分あった。飲むしかない。持参したワイン・ビア・日本酒を頂いた。談話室で埼玉だかのご夫婦と交流。明日、文三郎道でザイルを使う、使わないの検討をしていた。旦那は使う、奥方は不要だった。もう一人の年配の方は、昨日夏沢鉱泉に宿泊し、今日硫黄岳を越えて来たと言った。明日は下山とのこと。私より上で７６歳。やっぱり山が好きで高齢になっても止められないそうだ。夏沢鉱泉は茅野まで迎えに来

てくれるそうだ。ただ、宿泊費は１３０００－とのこと。送迎代が入っているか。
夕食は５時半から。ここの夕食はステーキが有名だが、この日は金目鯛だった。少しガッカリしたが、実はステーキは、街でいう一枚ステーキでなく、肉粉を合わせたものという。ま、これではね・・・。

談話室

金目鯛

２日目＝２０日（土）無風・快晴・高温
朝食は６時半。早くて有難い。昨夜は早く寝すぎたためか、夜半に目が冴えてしまった。８名の相部屋だが問題はなかった。結局、小屋を出たのは最初だった。天気は良く風は無かった。感謝感謝。まずは、中山峠を越えて行者小屋に向かう。峠道はたいした道ではないが、以前雪崩事故があった。
行者小屋から仰ぐ阿弥陀岳は見事だった。蒼穹をバックに朝日に光輝いていた。「さあ、今日はあそこまで行くぞ」と気合を入れる。

行者小屋

文三郎道に入る。トレースはあった。今日の予定は、阿弥陀岳まで行く。ただ、下りを何処にするか未定だった。

理想は、１．御小屋尾根を最低コル付近まで下り、直接、赤岳山荘まで下るがイイ。車が赤岳山荘に置いてあるからだ。その場合、コルからのルートは未知で南沢に下れるかどうか。　２．１が駄目の場合、中岳沢を行者小屋に下る。トレースはあった。しかし、ここは雪崩の危険がある。以前、労山で大きな事故があった。ルート的にも戻るのは美しくない。　３．御小屋尾根を美濃戸まで下る。この場合、車を赤岳山荘まで取りに行かなければならない。これも美しくない。

阿弥陀岳

赤岳上り　バックは権現岳

頂上直下

頂上

中岳分岐から赤岳に向かう。頂上まで急な雪壁だが、今回は雪が多く問題はなかった。ＫＹがやや遅れた。このところ厳しい山から遠ざかっていたのが理由だろう。それでも頑張った。頂上に男女がいた。聞けば、下山は地蔵尾根といった。
記念写真を撮って貰いすぐ下山。中岳分岐上で昨日の夫婦が上って来た。ザイルを使用かどうかは不明。でも、奥方は元気だった。力があるのだろう。
分岐から下り、中岳に上る。右手の文三郎道にゾロゾロ登山者が続いていた。再び下り中岳沢コル着。ここから約１５０ｍ厳しい上りが待っている。登頂者が１名降りて来た。北稜に２名。梯子からの上りが特に厳しかった。ちょっと雪崩そうで怖い。実はこの日、白馬・小蓮華山で４０歳のボーダーが雪崩で亡くなっている。これからの時期、雪崩は超要注意。

中岳から阿弥陀岳

ＫＨがトップでガンガン上る。この方は、これ程厳しい上りでも息は荒くない。私はゼ―ゼ―ハーハー。体の構造が何処か違うのだろうか。頂上でＫＹを待つ。何処かのオジサンが御小屋尾根を上って来た。チエーンアイゼンだった。
ＫＹを迎えすぐ下山。時間・天気・体調は悪くない。中岳沢下降は雪崩リスクがある。兎に角、最低コルまで行ってみることにした。御小屋尾根分岐でザイルの男女が来た。バリェ―ションかと聞けば、御小屋尾根といった。尾根は雪が結構深かった。頂上のオジサンは舟山十字路から４時間で来たといったが、そんな短時間でよく来たと思った。

阿弥陀岳上り

御小屋尾根下り

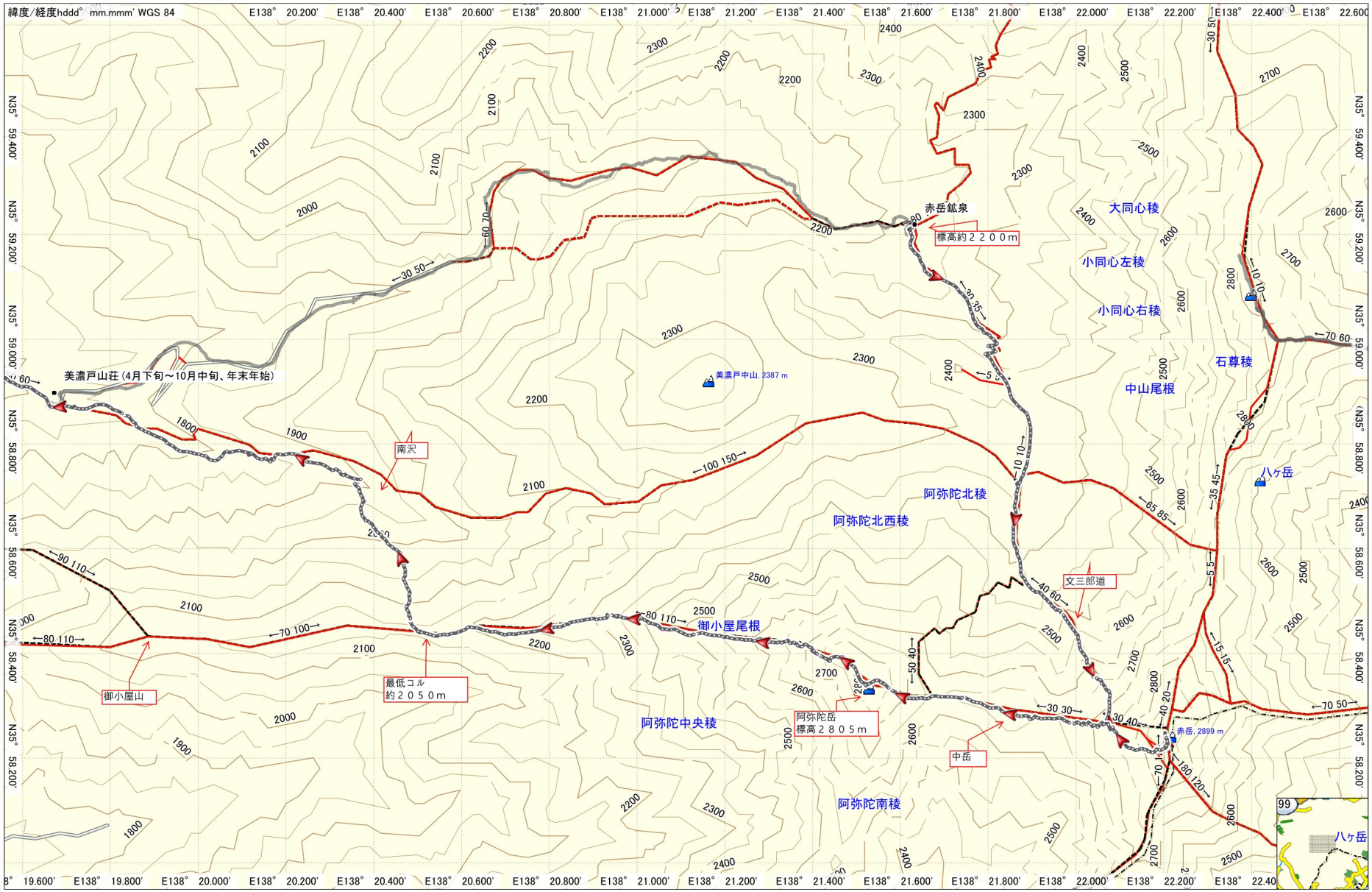
最低コルまで長かった。空腹だし疲れもあったので手前で昼食。日当たりが良く暖かかった。梅酒・ビア・雑炊・ラーメンが美味かった。昼食後、短時間で最低コル。ブッシュはやや多そうだが下れそうだった。標高が下がり雪は上部ほどない。ＫＨが志願して突っ込む。イイ感じで下降ははかどった。最近はＧＰＳがあり楽で安心である。

昼食

雑炊

沢音が聞こえた。南沢だった。渡渉を懸念したが、全く問題なく、安全に簡単に対岸に渡り、登山道に出た。場所は南沢の高巻き道の少し上だった。
登山道を下って周りを観察したが、渡渉点はここしかない、ベストな場所だった。最高の選択と決断だった。
下山後は、「もみの湯」で温まり帰った。この温泉は、５００－と安価でなかなか良かった。地元のオジサンと湯船で交流した。田舎のオジサンは優しいね。

（了）


緯度/経度hddd° mm.mmm' WGS 84
美濃戸山荘（4月下旬～10月中旬、年末年始）
南沢
赤岳鉱泉
標高約２２００ｍ
大同心稜
小同心左稜
小同心右稜
石尊稜
中山尾根
美濃戸中山, 2387 m
八ヶ岳
阿弥陀北稜
阿弥陀北西稜
文三郎道
御小屋尾根
御小屋山
最低コル
約２０５０ｍ
阿弥陀中央稜
阿弥陀岳
標高２８０５ｍ
中岳
赤岳, 2899 m
阿弥陀南稜
Japan Topo 10M Plus V3
CanvasMapple Co., Ltd 2014
Garmin Corporation 1995-2014
2018/01/22 11:00:07
GARMIN

山行NO　　ＮＯ．１７７４
日　時　　１月２７日（水）無風・快晴　　写真・文　ＧＴ
山　域　　宇佐美＝巣雲山（５８１ｍ）
コース　　宇佐美海水浴場８：５９—阿原田集落—ミカン畑—林道—どっこい処１０：４２—大丸山下—峠—巣雲山１２：０２～１３：０９—生仏の墓—別荘地—宇佐駅前・民宿「鈴幸」温泉１５：３０
参加者　　９名

宇佐美海水浴場から出発。阿原田から上りが始まる。ミカン畑の中を行く。
ミカンを少し頂く。昔なかったと思う新しい林道を上る。
終点に「どっこい処」休憩場があった。

宇佐美海岸

どっこい処上

小休憩。見晴らしが良い。三浦半島・大島が見えた。周りは植林があった。
小さくて樹種は不明。モミジの様な感じだったが・・・。
わざわざこんな高所に植林をする理由は分からない。

先日の雪が多かった。ただ、気温が低く硬いので問題はない。
大丸山に行かず峠に向かう。やっぱり以前の道と違うようだ。
峠から巣雲山まで結構長い。反対コースを若い男性が上って来た。

巣雲山・１

・２

・３

頂上は素晴らしい。一面の雪でいつもの感じと違う。富士山が大きい。
何処かの方がスケッチをしていた。なかなか絵になる。
巨大な展望台脇で昼食。ショウガ入りのトン汁が美味しかった。

下山は生仏の墓経由で下る。こちらは急な所がなく楽だった。
やがて林道に出て、別荘地を通過する。
可なりの山中で大変そう。
下りきって、花岳院という曹洞宗の寺に寄った。
宇佐美駅で河津のＴさんとお分かれ。
他は駅下の温泉民宿「鈴幸」で温泉浴。熱からず温からずでイイ温泉だった。
休憩場ありで５００ーは有難い。
ご主人が山から採って来た「はっさく」を一個５０ーで分けてくれた。

「鈴幸」女将

今回は楽しい雪見ハイキングでした。ゲストの方もよく歩きました。
また、行きましょう。

「れいほう」２０１８・１月号　おわり